

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

●はじめに

観光施策の基礎資料とすることを目的として、高知県内の観光地で四季ごとにアンケート調査を実施し、観光客の動向を把握するとともに調査結果の分析を行った。

調査精度の均一化を図るため、委託事業者が時間帯を10時から17時まで偏りがないように調整しながら、1グループに1名（1回答）を徹底した対面聞き取り方式により調査を実施した。

冬期と春期・夏期・秋期では調査地点が変更となり、ゆとりすとパーク・大豊を削除し、新たに高知城、アンパンマンミュージアム、モネの庭を追加した。そのため、調査地別の表では11か所の観光地の割合を表記・比較している。

とりまとめにあたっては、アンケート調査に基づく全般的な傾向等について記載するとともに、それぞれの調査項目について、その特徴的な事項の説明を加えた。また、別記として旅行者のコメント（抜粋）を記載することにより、特徴的な意見のとりまとめを行った。

なお、暦年調査のため、参考資料は冬春夏秋の順に表示している。

アンケート調査地

冬期(8カ所)

室戸岬、桂浜、足摺岬、龍河洞、土佐和紙工芸村、
ゆとりすとパーク・大豊(道の駅大豊含む)、黒潮本陣、
四万十川観光開発遊覧船乗場

春期・夏期・秋期(10カ所)

室戸岬、桂浜、足摺岬、高知城、龍河洞、土佐和紙工芸村、
モネの庭、アンパンマンミュージアム、黒潮本陣、
四万十川観光開発遊覧船乗場

●平成 22 年観光統計調査の特徴

・日帰り旅行者の増加

四季を通じた統計調査の結果、前年より「日帰り旅行者」の割合が 13 ポイント増加し、41%となった(表 3-2)。

発地ブロック別に日帰り旅行者の割合をみると、北陸・新潟を除いたすべてのブロックが前年と比べて増加している。本県への入込が多い近隣 3 ブロックの日帰り旅行者の割合は、四国 3 県が 77%(H21:64%)、近畿が 18%(H21:7%)、中国が 41%(H21:18%)という結果となった(参考 1)。

これは長期にわたる景気低迷のあおりを受けて「安近短の旅行」が主流になりつつある状況の中で、平成 21 年からはじまっている高速道路休日 1,000 円による影響や、NHK大河ドラマ「龍馬伝」と関連するイベントなどで注目を集めた本県に、四国 3 県、中国、近畿を中心に日帰り旅行者が増えたと推測できる。

・自動車を利用した家族旅行の増加

入込利用交通機関別割合の推移をみると、自家用車の利用は全体の 82%で、前年より 4 ポイント増加している(図 3-10)。関東より西の地域は、ほぼ自動車(レンタカー含む)で来県しているという結果となった(参考 2)。

年代別旅行形態別割合をみると、家族旅行が 74%を占めており、前年より 7 ポイント増加し(表 3-11)、四季別にみても、どの時期も家族旅行が高い割合を占めている(参考 3)。

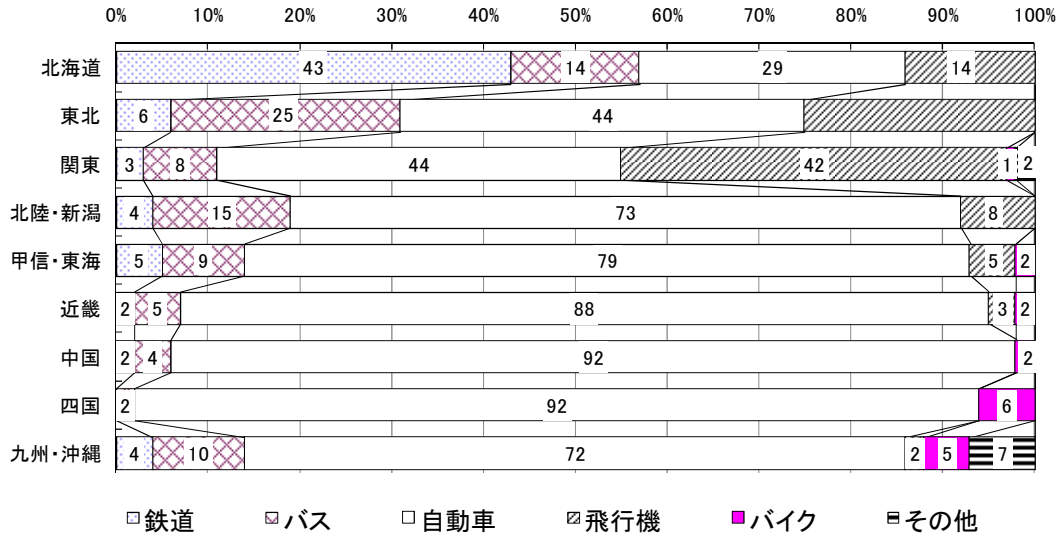
このように「来県者の傾向」が見えるなかで、県外観光客の誘客やPR活動を、どのメディア・媒体を活用するのか、どういった旅行関係機関(例えば旅行会社、運輸会社、PA・SA・県外道の駅)に協力をいただくのか、また、「自動車で旅行する家族」以外の観光客の掘り起こしなどの戦略づくりが必要である。

同じように、高知の受け入れ側の施設(宿泊施設、観光施設、観光協会など)は、必要な観光地案内板の設置、駐車場やガソリンスタンドMAP、郊外のグルメ情報、公衆トイレの洋式化、多目的トイレの充実などの旅行者が気持ちよく旅行できる受け入れ体制が求められる。

【参考1】 発地ブロック別日帰り旅行者割合(%)

年 \ 発地ブロック	北海道	東北	関東	北陸・新潟	甲信・東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
22年	14	13	5	8	12	18	41	77	11
21年	0	5	3	10	6	7	18	64	5

【参考2】 発地ブロック別入込交通機関別割合(%)



(バス:観光・貸切・路線バス 自動車:自家用車・レンタカー その他:フェリー、自転車、徒歩など)

【参考3】 四季別旅行形態割合(%)

時期 \ 旅行形態	1人	家族	友人知人	団体	その他
冬	4	74	22	0	0
春	6	77	16	1	0
夏	8	76	14	1	1
秋	9	70	17	2	2
年間	7	74	17	1	1

●高知県で、もう1泊してもらう仕組みづくり

四国3県からの旅行者の増加や、近畿圏までを含む日帰り旅行者の増加傾向で、平成22年の旅行日数(加重平均)は1.9日と、前年から0.3日減少している(表3-8)。それに関連して、県外旅行者の県内消費額は23,188円で、前年の24,156円より968円減となった(図3-16)。

旅行者の旅行目的をみると、名所旧跡、観光施設が全体の46%(前年は28%)と増加している(表3-9)。これは「龍馬伝」による影響で、坂本龍馬に関連した施設と、「土佐・龍馬であい博」関連施設の周遊が多くあったと考えられる。

いかに旅行者の滞在時間、滞在日数を伸ばしていくかが今後の課題になるので、地域の核となる魅力を今より磨き上げ、滞在型・体験型観光を推進し、さらに他の地域と連携することで、半日の滞在を1日に、1泊を2泊に、2泊を3泊へとつなげていく必要がある。

●旅行者四季別傾向

冬：四国3県、近畿、中国からの旅行者が前年より増え、自家用車での来県が88%を占めた。それに関連して、日帰り旅行者が35%(前年は23%)に増加した(表3-3)。

春：家族旅行の割合が77%で1年の中で最も多くなっている(参考3)。龍河洞、黒潮本陣、モネの庭、アンパンマンミュージアムは、日帰り旅行者が半分以上を占めた。感想では、龍馬伝やカツオ、アウトドア、道路事情などに関する意見が多くあった。

夏：家族旅行の割合が76%と、春期同様に高くなった(参考3)。感想では、魚介類、果物など食に関することや、海や山、高知の自然に関する意見があった。

秋：日帰りと1泊旅行があわせて85%を占めた(表3-3)。ホテル・旅館に宿泊する旅行者が77%と、1年の中で最も高くなっている(図3-14)。また、団体旅行、パック旅行が82件で、1年の中で最も多くなった。

●平成 22 年の調査を振り返って

幅広い年代で、坂本龍馬などの高知の歴史に期待を寄せた方が多く、桂浜や土佐・龍馬であい博を訪れるためだけに来県した旅行者も 1 年を通していた。四国 3 県だけでなく、近畿や中国からも、日帰りで来県した方が多かった印象を受け、特に春期に強くその傾向を感じた。また、日帰り旅行者は、どの調査時期も自家用車での来県が多かった。

アンケート中によく質問を受けたのは、飲食店情報、道路事情、公共交通機関観光施設・史跡の場所や情報について、龍馬とカツオ以外に高知で面白いものについてなどであった。また、桂浜では坂本龍馬、室戸岬では中岡慎太郎、足摺岬ではジョン万次郎というように、その調査地にゆかりのある高知の偉人についての質問もあった。

秋期・冬期は旅行者が少ないうえ、県内旅行者が目立っていたことから県観光の発展のためには、オフシーズン対策が重要である。

また、室戸岬や足摺岬では様々な旅行者が景色の美しさを称えていたが、一方で、その場所でお金を消費するシステムが少ないことについて言及した旅行者もいた。旅行者の消費額をあげる仕組みづくりも検討していく必要がある。

2 年代別入込割合

(表 3-1) 年代別旅行者割合 (%)

年代	年	19年	20年	21年	22年	対前年比 22年/21年
	10 代		2	2	3	1
20 代		21	23	23	17	74
30 代		26	28	28	26	93
40 代		18	19	18	21	117
50 代		20	17	19	19	100
60代以上		13	11	9	16	178

前年との比較では、10代～30代は減少、50代は横ばい、40代と60代以上は増加となっている。特に60代以上は大幅に増加している。また、男女比では女性の割合がすべての年代で増加した結果となった。

【参考 4】 年代別性別旅行者割合 (%)

年代	年	平成20年		平成21年		平成22年	
		男	女	男	女	男	女
10 代		52	48	50	50	44	56
20 代		58	42	54	46	50	50
30 代		61	39	62	38	60	40
40 代		74	26	70	30	66	34
50 代		68	32	72	28	65	35
60代以上		76	24	74	26	66	34
計		65	35	64	36	61	39

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合 (%)

年 \ 旅行日数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊以上
22年	41	38	14	4	1	2
21年	28	41	22	4	2	3
20年	28	44	18	5	2	3
19年	30	45	16	4	2	3
18年	28	47	17	4	2	2

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合 (%)

時期 \ 年 \ 旅行日数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	22年	35	34	18	7	3
	21年	23	39	23	7	4
春	22年	42	35	15	4	2
	21年	28	41	22	4	3
夏	22年	40	40	14	3	1
	21年	29	34	26	6	2
秋	22年	45	40	10	2	1
	21年	31	48	19	1	0

本県への旅行の中心は、日帰り(41%)と1泊旅行(38%)で、合わせると79%となり、ここ5年では初めて日帰りが1泊旅行より多くなった。

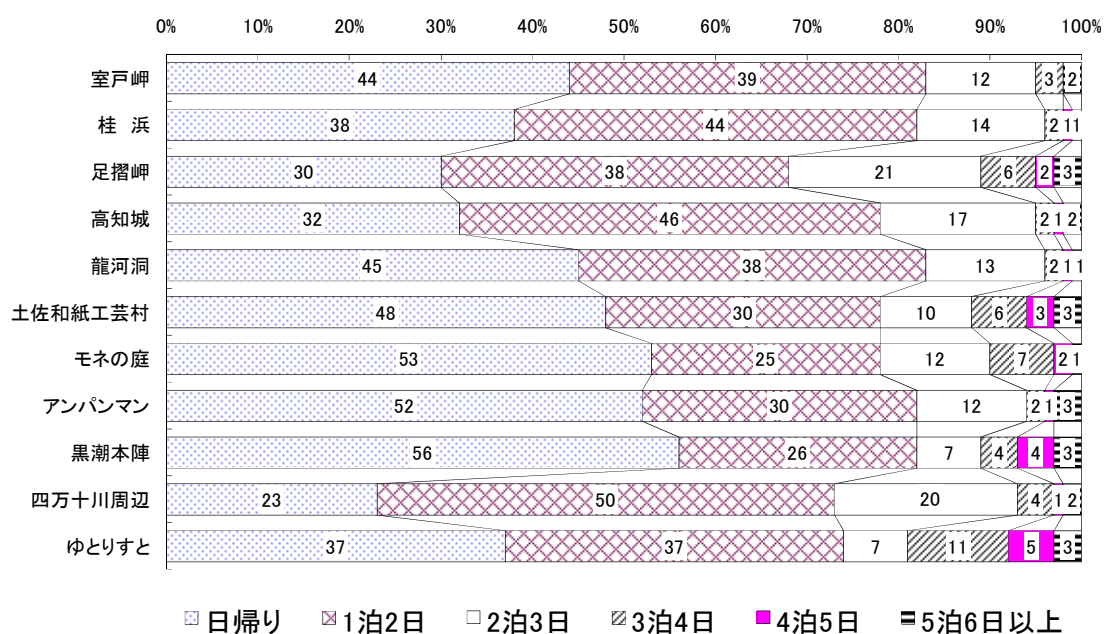
前年、前々年の日帰りは28%なので、平成22年は特に増加が目立つ結果となった。その反面、前年と比較して2泊3日が14%で8ポイント減、1泊2日が3ポイント減となった。

これは長期にわたる景気低迷のあおりを受けて「安近短の旅行」が主流になりつつある現代、平成21年からはじまっている高速道路休日割引による影響や、NHK大河ドラマ「龍馬伝」と関連するイベントなどで注目を集めた本県に、四国3県、中国、近畿を中心に日帰り旅行者が増えたと考えられる。

【参考5】 調査地別旅行日数割合(%)

調査地 \ 旅行日数	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上	合計
室戸岬	44	39	12	3	0	2	100
桂浜	38	44	14	2	1	1	100
足摺岬	30	38	21	6	2	3	100
高知城	32	46	17	2	1	2	100
龍河洞	45	38	13	2	1	1	100
土佐和紙工芸村	48	30	10	6	3	3	100
モネの庭	53	25	12	7	2	1	100
アンパンマン	52	30	12	2	1	3	100
黒潮本陣	56	26	7	4	4	3	100
四万十川周辺	23	50	20	4	1	2	100
ゆとりすと	37	37	7	11	5	3	100

【参考6】 調査地別旅行日数割合(%)



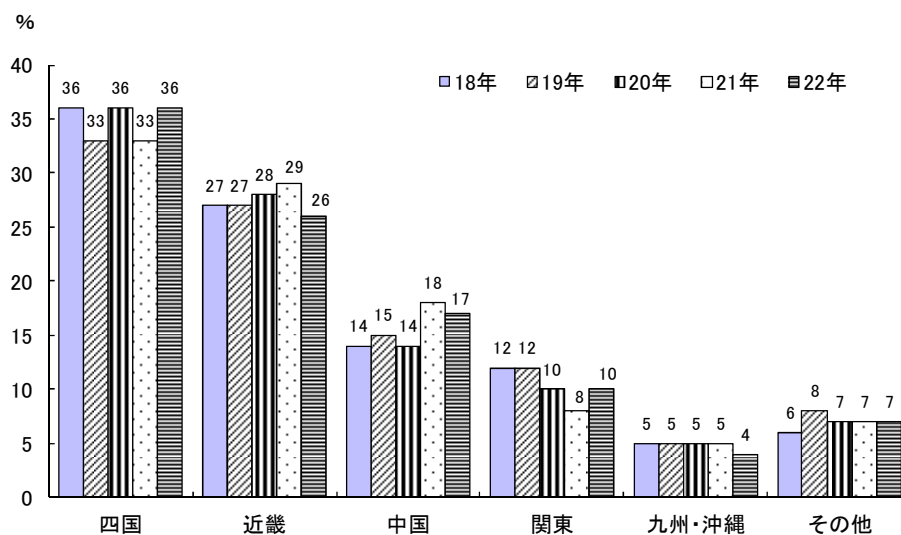
調査地別旅行日数割合をみると、黒潮本陣、モネの庭、アンパンマンミュージアムで日帰り旅行者が50%を超えている(参考5)。

アンケートを実施するなかで、龍馬伝やメディアによるカツオの宣伝をみて興味が湧き、日帰りで来県したという観光客は1年を通していた。

桂浜や高知城などの中部主要観光地と幡多地域(四万十や足摺)では、日帰りより1泊2日が多くなっており、特に幡多地域は2泊3日の割合も高い(参考6)。

4 発地ブロック別入込

(図 3-4) 発地ブロック別割合 (%)



(表 3-5) 発地ブロック別割合 (%)

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
18年	36	27	14	12	5	6
19年	33	27	15	12	5	8
20年	36	28	14	10	5	7
21年	33	29	18	8	5	7
22年	36	26	17	10	4	7

【参考 7】 発地ブロック別その他の割合 (%)

	北海道	東北	北陸・新潟	甲信・東海
22年	3	8	12	77
21年	3	12	12	73

※その他 7%の内訳を 100%にて表示

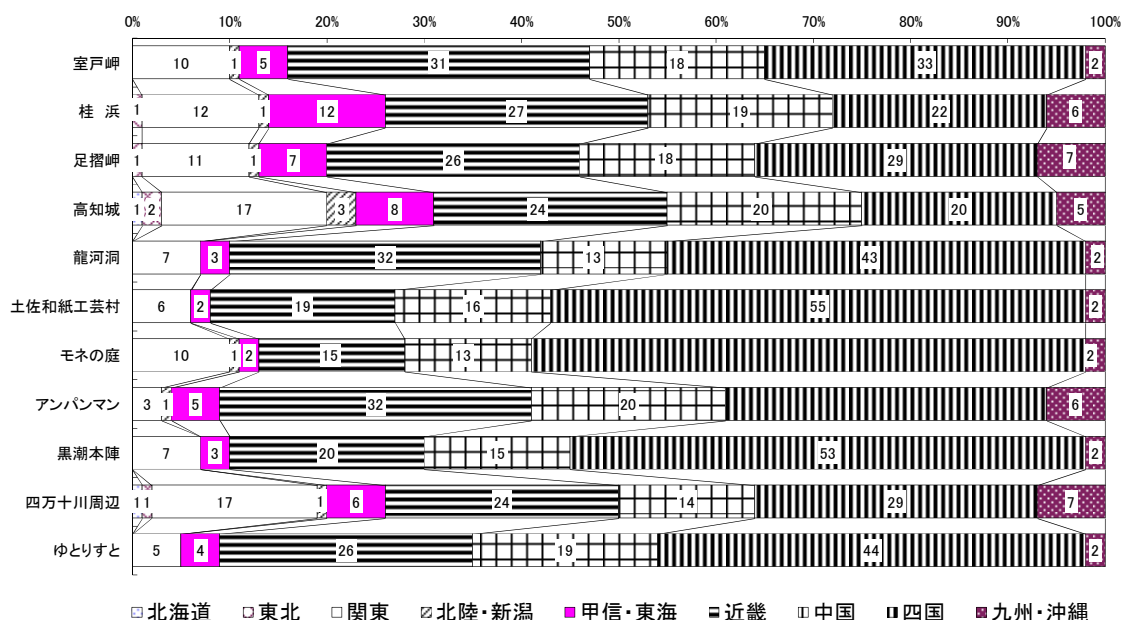
前年と比較すると、四国 3 県が 3 ポイント、関東が 2 ポイント増加し、前々年と同じ割合になった。それ以外のブロックは減少(その他は横ばい)し、特に前年まで増加傾向にあった近畿が約 3 ポイント減少している。その他では、甲信・東海が前年から約 4 ポイント増加した。

アンケートを実施するなかで、四国 3 県、中国、近畿(兵庫や大阪)からの日帰り観光客が目立った。

【参考8】 調査地別発地ブロック別割合(%)

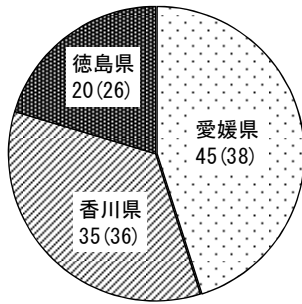
調査地	発地ブロック	北海道	東北	関東	北陸・新潟	甲信・東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	合計
室戸岬		0	0	10	1	5	31	18	33	2	100
桂浜		0	1	12	1	12	27	19	22	6	100
足摺岬		0	1	11	1	7	26	18	29	7	100
高知城		1	2	17	3	8	24	20	20	5	100
龍河洞		0	0	7	0	3	32	13	43	2	100
土佐和紙工芸村		0	0	6	0	2	19	16	55	2	100
モネの庭		0	0	10	1	2	15	13	57	2	100
アンパンマン		0	0	3	1	5	32	20	33	6	100
黒潮本陣		0	0	7	0	3	20	15	53	2	100
四万十川周辺		1	1	17	1	6	24	14	29	7	100
ゆとりすと		0	0	5	0	4	26	19	44	2	100

【参考9】 調査地別発地ブロック別割合(%)



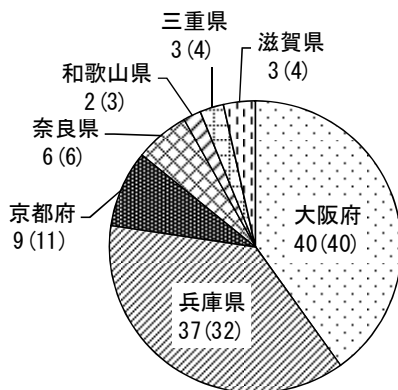
調査地別発地ブロック別割合をみると、四国3県からの旅行者は土佐和紙工芸村、モネの庭、黒潮本陣で半分以上を占めており、中国からの旅行者は県下を幅広く回っている。近畿の旅行者は龍河洞やアンパンマンミュージアム、室戸岬が多く、関東の旅行者は高知城と四万十川に多く訪れていた。

(図 3-6-1) ブロック別・四国 (%)



香川県、徳島県からの旅行者の割合が減少し、愛媛県の割合が7ポイント増加、全体の45%を占めた。愛媛県の旅行者は土佐和紙工芸村、黒潮本陣、幡多地域(四万十、足摺)などで目立ち、香川県の旅行者は黒潮本陣や龍河洞、徳島県の旅行者は室戸岬、モネの庭などで目立った。

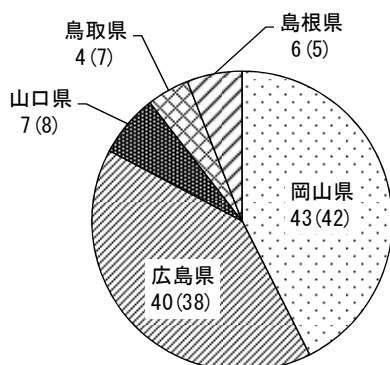
(図 3-6-2) ブロック別・近畿 (%)



兵庫県の旅行者は37%で前年より5ポイント増加し、大阪府の40%とあわせて近畿ブロックの8割近くを占めている。それ以外の府県は、奈良県を除いて減少となった。

四国3県の次に入込が多い近畿だけに、さらなる掘り起こしをすれば、観光客の増加につながると考えられる。

(図 3-6-3) ブロック別・中国 (%)

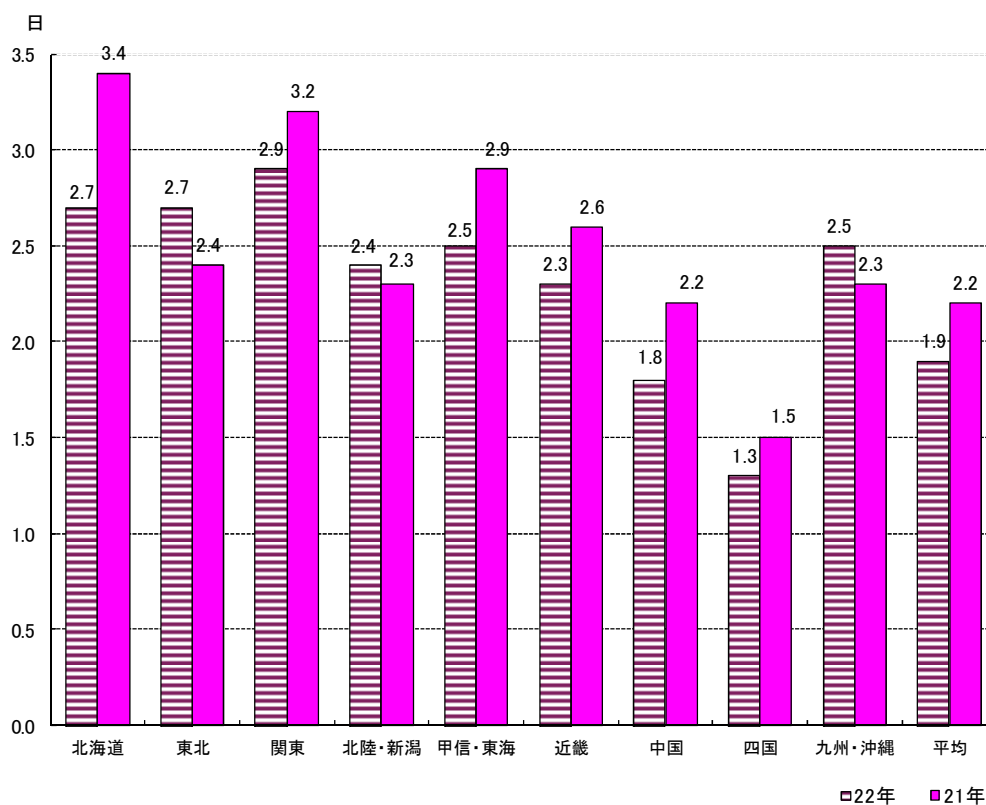


岡山県、広島県、島根県からの旅行者の割合が微増し、鳥取県と山口県が減少した。岡山・広島の高両県が中国ブロックの83%を占めており、中国からの旅行者のうち、約41%が日帰り旅行者という結果となった。滞在時間、滞在日数を伸ばす工夫が必要である。

() は H21 年

5 旅行日数

(図3-7) 発地ブロック別県内旅行日数(日)



県外旅行者による平均旅行日数は1.9日で、前年の2.2日より0.3日少なくなった。旅行日数の数字が前年より増加したのは東北、北陸・新潟、九州・沖縄などの遠方の地域で、それ以外のブロックはすべて減少となった。

今や名古屋を中心とする中京圏から高知までは車で移動・観光できる範囲という認識が広がっており、次第に近畿から日帰りをする観光客も年々増加していることが、平均旅行日数を減少させている理由のひとつと考えられる。

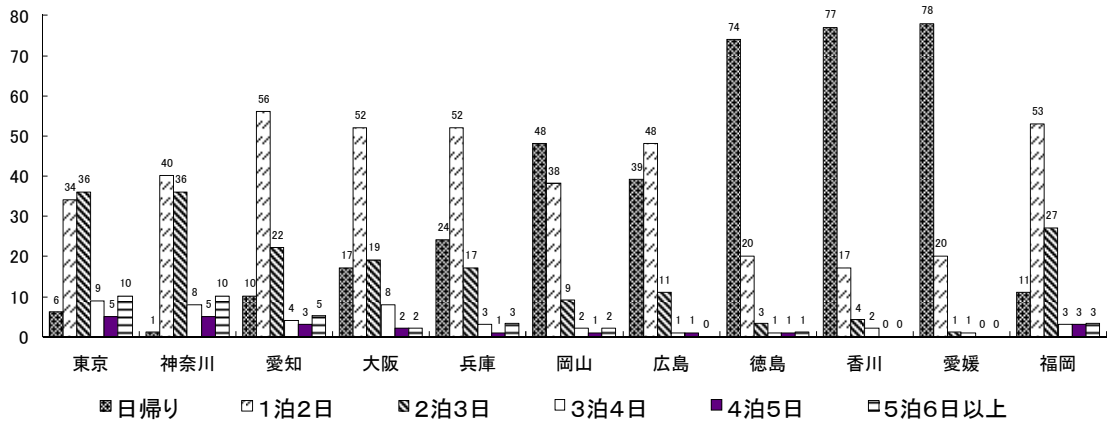
入込上位11県別旅行日数(22年)と入込上位11県別旅行日数(21年)の割合を比べると、11県すべてで2泊3日が減少し、日帰りや1泊2日が増加した結果となった。

入込が増えた関東(東京・神奈川)も、2泊3日が減少したぶん、1泊2日が10ポイント以上増加している。この11県は人口が多く、消費額も期待できるので、もう1泊して頂けるPRや魅力づくりに加え、少ない時間の中で高知を楽しんでもらえる工夫が求められる。

【参考 10】 入込上位 11 県別旅行日数割合 (22 年) (%)

上位11県 旅行日数	東京	神奈川	愛知	大阪	兵庫	岡山	広島	徳島	香川	愛媛	福岡
日帰り	6	1	10	17	24	48	39	74	77	78	11
1泊2日	34	40	56	52	52	38	48	20	17	20	53
2泊3日	36	36	22	19	17	9	11	3	4	1	27
3泊4日	9	8	4	8	3	2	1	1	2	1	3
4泊5日	5	5	3	2	1	1	1	1	0	0	3
5泊6日以上	10	10	5	2	3	2	0	1	0	0	3
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

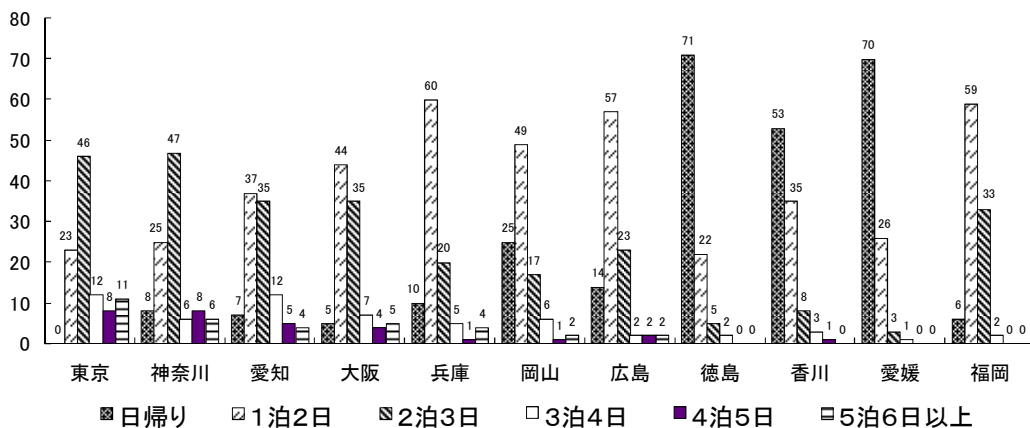
【参考 11】 入込上位 11 県別旅行日数割合 (22 年) (%)



【参考 12】 入込上位 11 県別旅行日数割合 (21 年) (%)

上位11県 旅行日数	東京	神奈川	愛知	大阪	兵庫	岡山	広島	徳島	香川	愛媛	福岡
日帰り	0	8	7	5	10	25	14	71	53	70	6
1泊2日	23	25	37	44	60	49	57	22	35	26	59
2泊3日	46	47	35	35	20	17	23	5	8	3	33
3泊4日	12	6	12	7	5	6	2	2	3	1	2
4泊5日	8	8	5	4	1	1	2	0	1	0	0
5泊6日以上	11	6	4	5	4	2	2	0	0	0	0
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

【参考 13】 入込上位 11 県別旅行日数割合 (21 年) (%)



(表 3-8) 年代別旅行日数(加重平均)(日)

年代 \ 年	22年	21年	20年	19年	18年
10 代	2.0	2.0	1.9	2.3	2.0
20 代	1.9	2.1	2.1	2.2	2.1
30 代	2.0	2.3	2.2	2.1	2.1
40 代	2.0	2.3	2.4	2.1	2.1
50 代	1.8	2.1	2.0	2.0	2.0
60代以上	1.9	2.1	2.1	2.1	2.0
全 体	1.9	2.2	2.2	2.1	2.1

旅行日数の平均は 1.9 日で、年代別にみると、50 代が 1.8 日、30 代と 40 代が 2.0 日、他の 4 世代が平均と同数の 1.9 日で、世代間による差はなかった。

今年は「龍馬伝」の影響があり、日帰りで気軽に本県へ立ち寄られた観光客が多くいた。こうした観光客にリピーターになってもらうためにも、高知の歴史をより深く感じてもらう仕組みづくり(観光ガイド、語り部の育成)や、日常に感じる高知の魅力(土佐人、食べ物ほか)を伝えることなど、これまで以上に滞在型・体験型観光の推進が求められる。

6 旅行目的

(表 3-9) 旅行形態別旅行目的割合 (%)

旅行形態		旅行目的	自然見物 ・町歩き	名所旧跡 観光施設	休養・慰安	食べ物	神仏・霊場 巡り	その他
1 人	22年		16	25	3	1	7	48
	21年		17	17	1	1	3	61
	20年		22	20	1	1	4	52
家 族	22年		17	50	6	5	3	19
	21年		23	30	6	11	3	27
	20年		23	32	6	11	4	24
友人知人	22年		17	38	3	8	1	33
	21年		22	25	3	12	2	36
	20年		17	34	3	13	2	31
団 体	22年		3	61	15	0	0	21
	21年		12	17	46	7	0	18
	20年		19	34	31	4	2	10
そ の 他	22年		16	42	0	5	5	32
	21年		20	20	0	0	0	60
	20年		0	50	0	0	0	50
全 体	22年		17	46	5	6	3	23
	21年		22	28	6	11	2	31
	20年		21	31	6	11	3	28

【参考 14】 旅行形態別旅行目的割合 (%)

その他の旅行目的	イベント	スポーツ	買い物	キャンプ	なんとなく	帰省	その他
22年	1	2	4	8	36	40	9
21年	1	2	3	15	30	41	8
20年	4	2	2	12	36	37	7

その他全体を 100%とする内訳

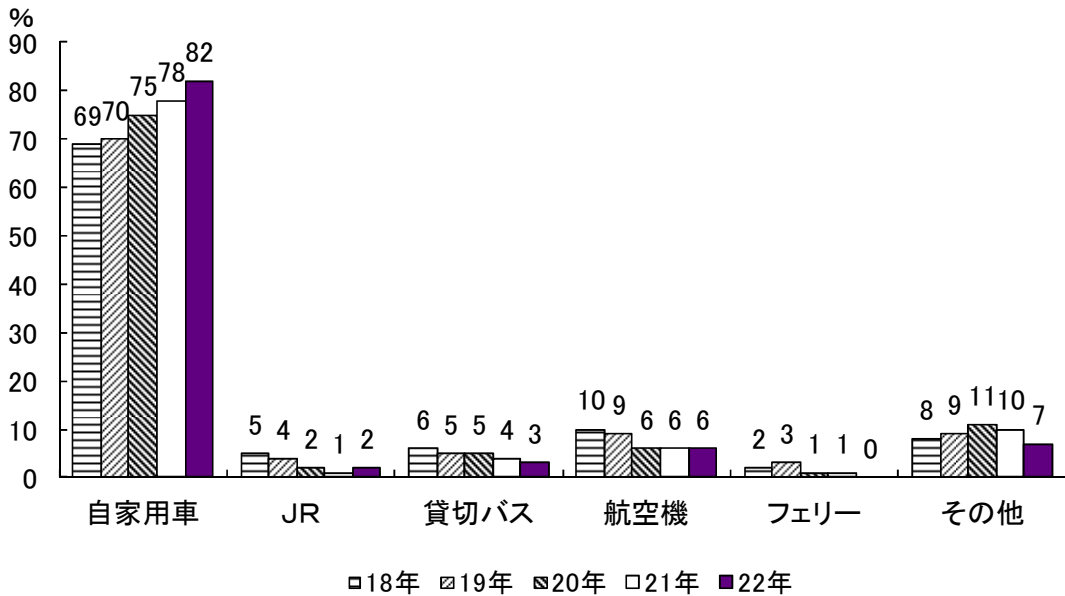
本県への旅行目的(全体)をみると、名所旧跡・観光施設が 46%と最も多く、前年から 18 ポイントも増加している。次いで自然見物・町歩きが 17%、帰省が約 9%(その他全体から算出)、なんとなく(ドライブ含む)が約 8%(その他全体から算出)、食べ物が 6%、休養・慰安が 5%と続いた。

旅行形態別でみると、どの旅行形態でも名所旧跡・観光施設が増加している。1 人旅行は休養・慰安と神仏・霊場巡りが増加し、家族旅行は名所旧跡・観光施設が 20 ポイント増加した。友人知人においても同様で、団体にいたっては 44 ポイント増加となった。

その反面、ほとんどの旅行形態で自然見物・町歩きと食べ物が減り、団体は休養・慰安が 31 ポイント減少した。

7 入込利用交通機関

(図 3-10) 入込利用交通機関別割合の推移(%)



入込利用交通機関は、例年同様自家用車で来県が圧倒的に多く 82%を占めた。前年が 78%、前々年が 75%、19 年が 70%なので、確実に増加傾向にある。

JR は 1 ポイント増の 2%、貸切バスは 1 ポイント減の 3%、航空機は前年と同様で 6%、フェリーは少数で 0%となった。その他(路線バス、レンタカー、バイク、自転車・徒歩など)は 7%で 3 ポイント減少した。その他の内訳はバイクが大半だが、自転車や徒歩(霊場巡りなど)もあった。

今年は県内全域を自由に周遊できる自家用車の増加とともに、平均旅行日数や消費額が減少する傾向にあった。このことから、滞在型観光の促進に加え、渋滞防止のための施策、駐車場対策、国道・県道での物産販売や観光案内板の充実など、車で周遊している旅行者に対してより良い環境を提供することと、食事やお土産の購入など、県内での消費につなげていくことが不可欠といえる。また、公共交通機関を利用したいが、利便性が悪いので利用しないという、二次交通の不便さを指摘する声も、多くの調査地で聞くことがあった。

8 旅行形態

(表 3-11) 年代別旅行形態別割合 (%)

年代		旅行形態		1人	家族	友人知人	団体	その他
		22年	21年					
10代	22年	3	42	55	0	0		
	21年	13	19	65	3	0		
20代	22年	9	39	50	1	1		
	21年	10	30	58	2	0		
30代	22年	7	76	16	1	0		
	21年	6	75	15	3	1		
40代	22年	7	83	9	1	0		
	21年	4	87	6	3	0		
50代	22年	6	86	7	1	0		
	21年	4	82	10	3	1		
60代以上	22年	6	85	6	1	2		
	21年	1	87	7	4	1		
全体	22年	7	74	17	1	1		
	21年	6	67	23	3	1		

(表 3-12) 年代別同行者数割合 (%)

年代		同行者数				
		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	22年	3	61	30	6	0
	21年	13	54	25	8	0
20代	22年	9	72	14	4	1
	21年	10	64	23	2	1
30代	22年	7	60	27	5	1
	21年	6	49	39	4	2
40代	22年	7	58	31	3	1
	21年	4	37	49	8	2
50代	22年	6	71	18	4	1
	21年	4	63	25	5	3
60代以上	22年	6	70	14	7	3
	21年	1	71	18	8	2
全体	22年	7	65	22	5	1
	21年	6	53	32	7	2

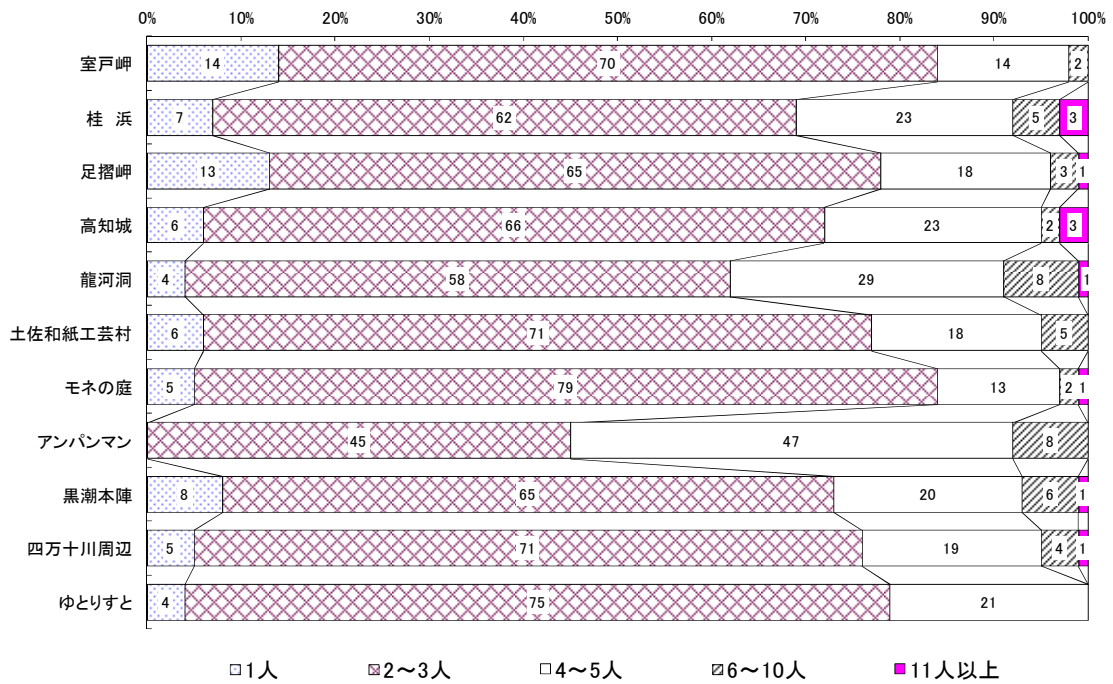
前年の年代別旅行形態割合(全体)と比較すると、「1人」は7%で1ポイント増、「家族」は74%で7ポイント増、それ以外の旅行形態は減少してる。

年代別同行者数割合(全体)は、「2~3人」の旅行が65%で、前年と比較して12ポイント増となり、それ以外はすべて前年から減少となった。特に4~5人の同行者が10ポイント減の22%と大きく減少した。調査地別同行者数割合では、「2~3人」はモネの庭(79%)、ゆとりすとパークおおとよ(75%)、四万十川(71%)、土佐和紙工芸村(71%)の割合が高くなっている。

【参考 15】 調査地別同行者数割合 (%)

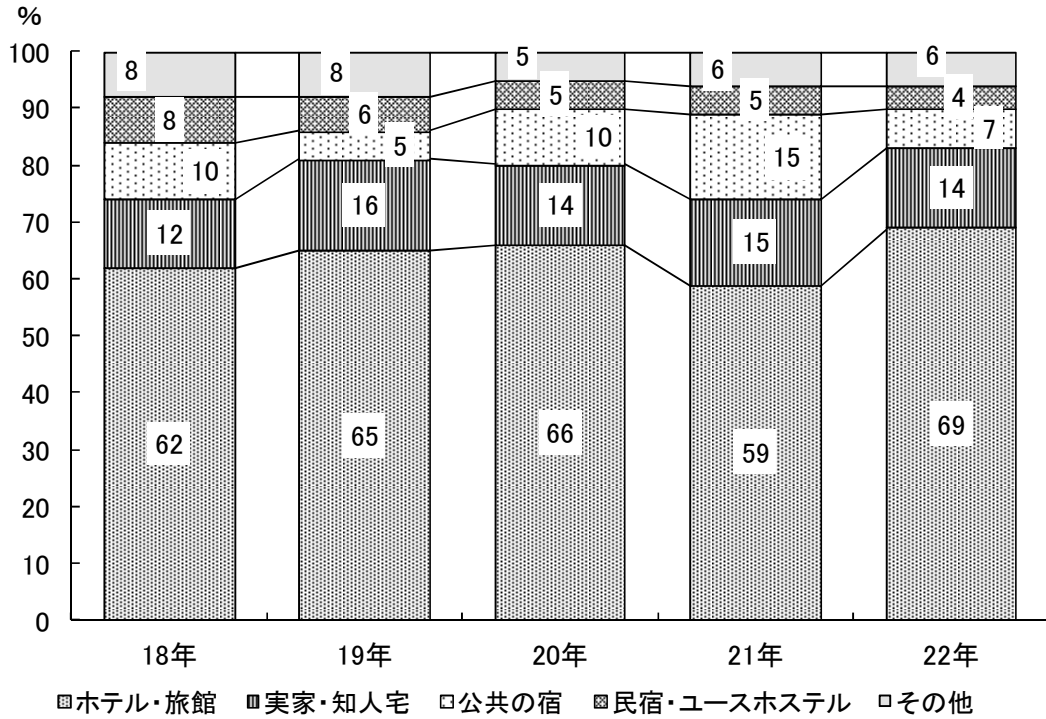
	室戸岬	桂 浜	足摺岬	高知城	龍河洞	土佐和紙工芸村	モネの庭	アンパンマン	黒潮本陣	四万十川周辺	ゆとりすと
1人	14	7	13	6	4	6	5	0	8	5	4
2~3人	70	62	65	66	58	71	79	45	65	71	75
4~5人	14	23	18	23	29	18	13	47	20	19	21
6~10人	2	5	3	2	8	5	2	8	6	4	0
11人以上	0	3	1	3	1	0	1	0	1	1	0
合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

【参考 16】 調査地別同行者数割合 (%)

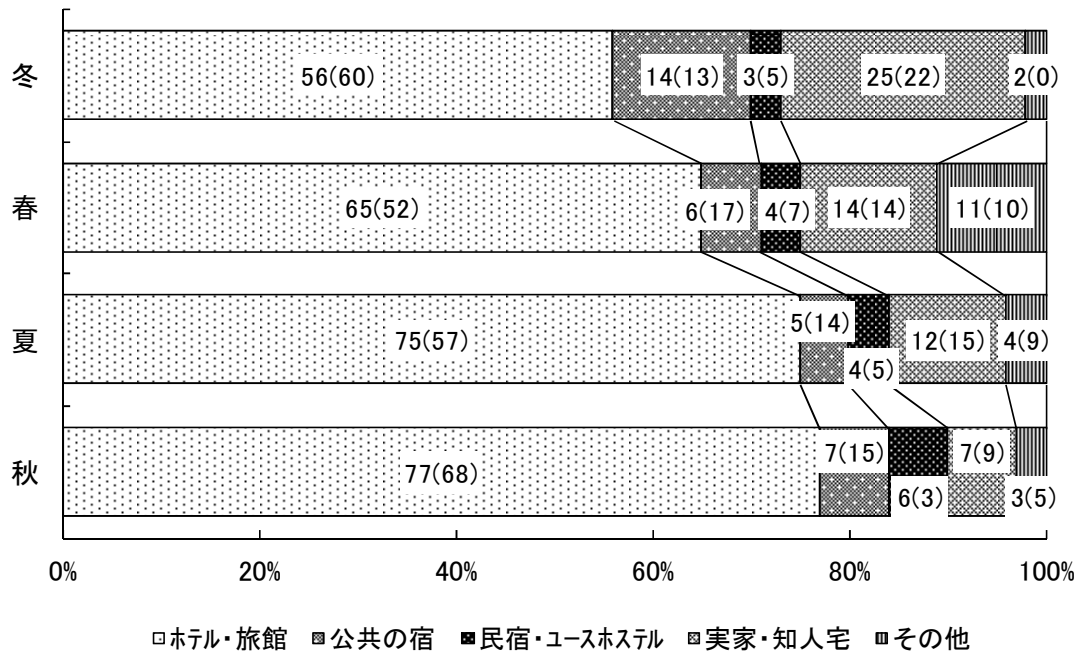


9 利用宿泊施設

(図 3-13) 県内利用宿泊施設別割合 (%)



(図 3-14) 四季別県内利用宿泊施設別割合 (%)



()はH21年

前年と比較すると、公共の宿が減少(15%→7%)し、ホテル・旅館が増加(59%→69%)となった。それ以外の宿泊施設は横ばいとなっている。

近年、インターネットによるホテルの宣伝が充実してきたことや、旅行会社のフリープランなどで幅広くホテル・旅館が紹介されていることも要因の1つとしてあげられる。また、平成22年は観光客の入込数も増えており、公共の宿より施設数が多いホテル・旅館を選ばれた方に調査で対面する確率も高くなったと思われる。

四季別県内利用宿泊施設別割合をみると、ホテル・旅館は夏期と秋期に割合が高く、公共の宿は冬期、民宿・ユースホステルは秋期、実家・知人宅は帰省が多い冬期が高い結果となった。

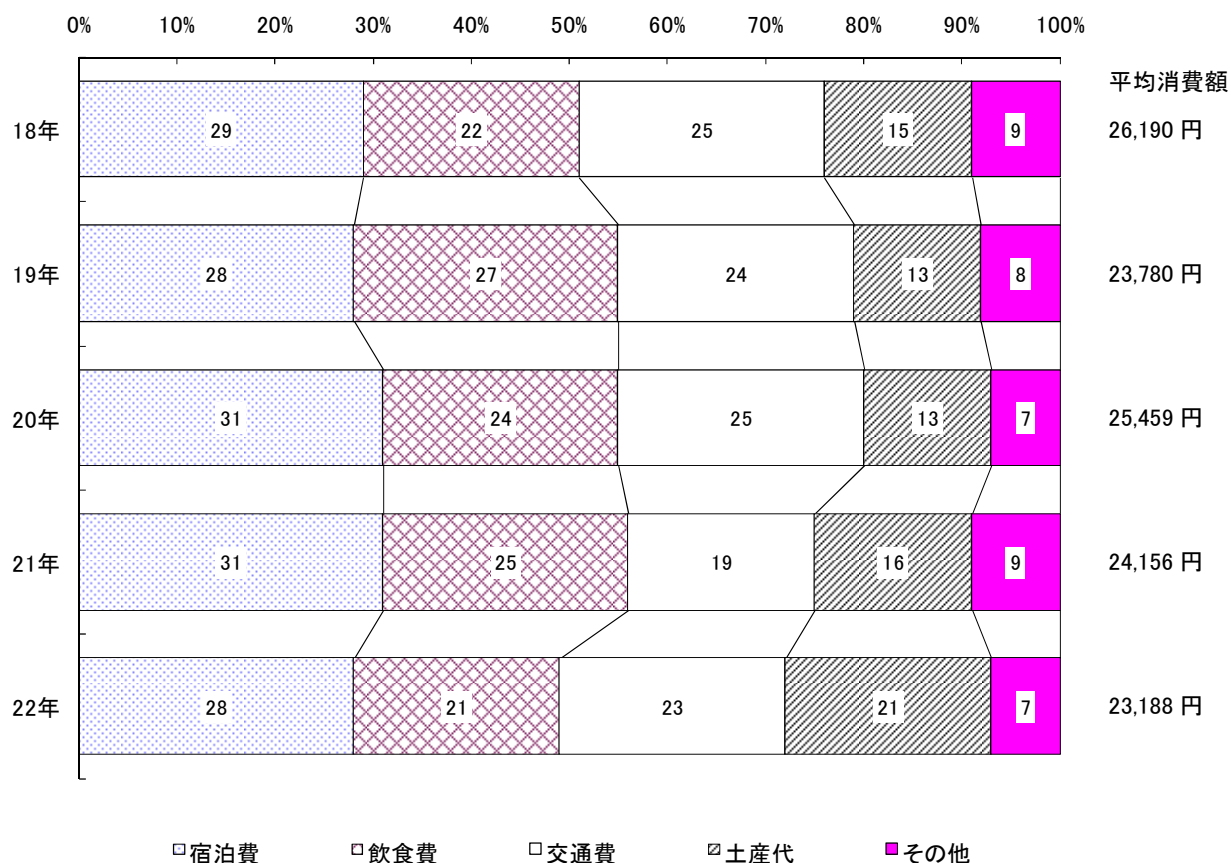
(表3-15) 年代別県内利用宿泊施設別割合(%)

年代		宿泊施設					
		ホテル・旅館	公共の宿	キャンプ場	民宿・ユースホステル	実家・知人宅	その他
10代	22年	30	8	8	0	54	0
	21年	35	14	6	3	25	17
20代	22年	64	4	2	5	19	6
	21年	56	16	2	7	14	5
30代	22年	68	9	2	4	14	3
	21年	59	13	3	5	15	5
40代	22年	69	7	2	3	15	4
	21年	50	16	4	4	23	3
50代	22年	73	7	1	4	12	3
	21年	68	14	1	3	12	2
60代以上	22年	73	9	0	6	8	4
	21年	72	15	0	5	7	1
全体	22年	69	7	2	4	14	4
	21年	59	15	2	5	15	4

年代別の利用宿泊施設は、前年と比べ、ホテル・旅館は10代を除くすべての世代が増加している。特に40代は50%から69%と、19ポイントの増加となった。公共の宿はどの世代も減少したが、特に20代が16%から4%、40代が16%から7%に減少している。キャンプ場と民宿・ユースホステルは、世代間で大きな変動はなく、実家・知人宅は10代が25%から54%と大きく増加し、40代は23%から15%に減少した。尚、10代は件数が少なく、他の年代と比べて偏りが出ていると考えられる。

10 県内消費額

(図 3-16) 県内消費額費目別割合(%)



前年比で見れば、県内消費額は平成 21 年より 968 円減少した結果となった。項目をみれば、宿泊費が 3 ポイント減少、飲食費が 4 ポイント減少、交通費が 4 ポイント増加、土産代が 5 ポイント増加、その他が 2 ポイント減少した。

交通費の増加は、関東からの入込が多くなったことが、要因の 1 つとして考えられる。

県内平均消費額費目別内訳(円)で前年と比較すると、宿泊費が 1,200 円減少、飲食費が 1,072 円減少、交通費が 860 円増加、土産代が 1,103 円増加、その他が 659 円減少という結果となった(参考 17)。

【参考 17】 県内平均消費額費目別内訳(22年・21年)(円)

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
22年	6,490	4,948	5,345	4,909	1,496
21年	7,690	6,020	4,485	3,806	2,155

【参考 18】 調査地別県内平均消費額(円)

調査地	室戸岬	桂浜	足摺岬	高知城	龍河洞	土佐和紙工芸村	モネの庭	アンパンマン	黒潮本陣	四万十川周辺	ゆとりすと
平均消費額	22,314	24,164	29,602	27,623	21,396	18,155	20,143	17,676	20,525	28,748	19,438

調査地別県内平均消費額をみると、足摺岬が29,602円と最も高く、アンパンマンミュージアムは17,676円と最も低くなった。

調査地別旅行日数割合からも、足摺岬は宿泊客の割合が高くなっており、県内旅行日数が増えることで、消費額も増加する傾向がある。

今年は県外客の日帰り旅行者の増加が目立った。そのため旅行日数も前年より0.3日短くなっている。旅行日数と県内消費額は関連性が強く、968円減少した要因の1つと思われる。また、ここ数年の景気状況が反映していることも否定できない。

県内消費額をあげるためにも、ポスト「龍馬であい博」の取組の一環として開催している「龍馬ふるさと博」の成功や、夜型イベント(星空ウォッチング、ナイトツアー、県外旅行者の評価が高い屋台・居酒屋めぐり等)の充実や開発によるもう1泊してもらう仕組みづくりなど、滞在型・体験型観光の一層の推進が求められる。これには行政、旅行会社や旅館組合、コンベンション協会等従来の旅行関係者だけでなく、地域の農家漁家民宿、地域で体験メニューを実施している団体なども含め、高知県民全体が一体となって取組んでいくことが必要だと思われる。

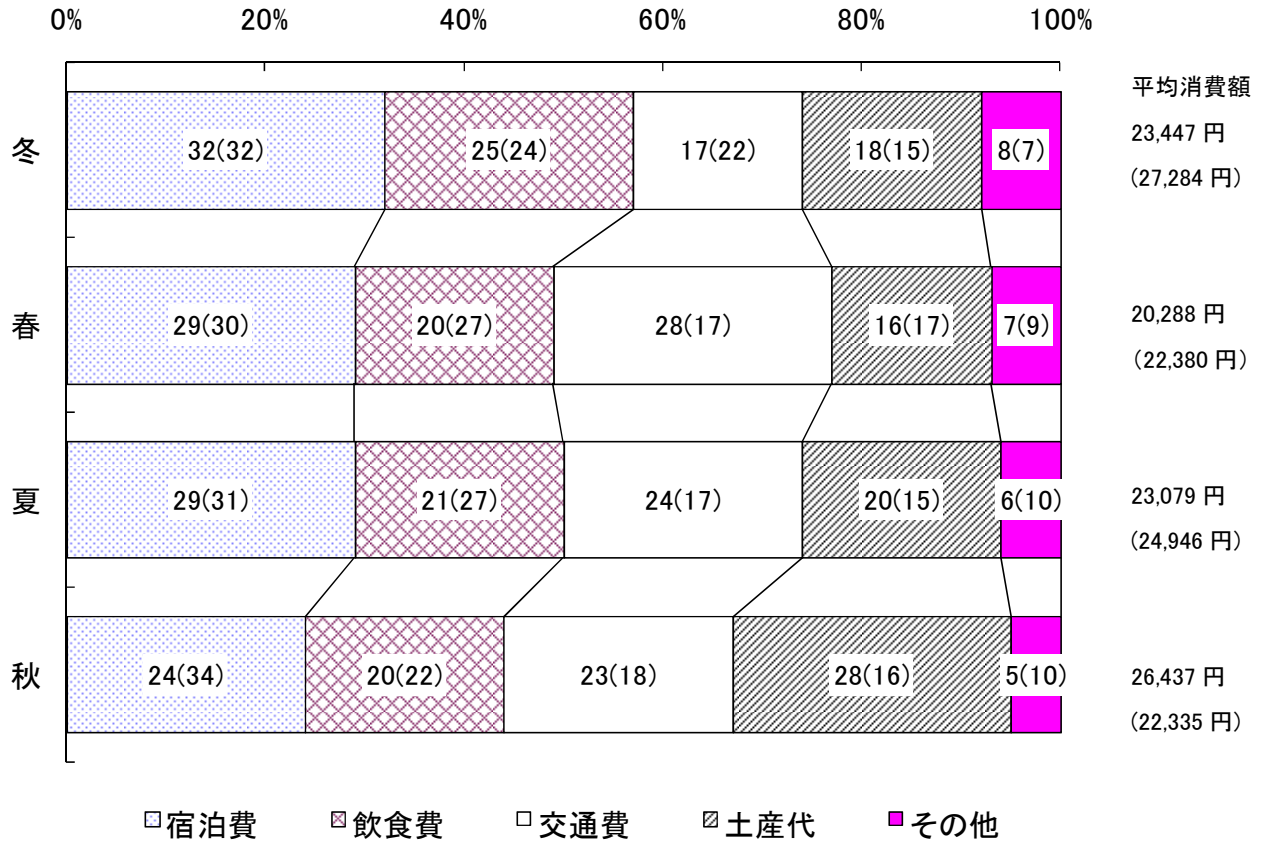
(表 3-17) 年代別県内消費額別割合 (%)

年代	費目	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額
		10 代	22年	17	28	28	21
	21年	16	35	27	13	9	18,174 円
20 代	22年	21	25	25	22	7	21,348 円
	21年	27	29	21	14	9	22,745 円
30 代	22年	29	21	22	21	7	23,586 円
	21年	32	26	18	15	9	24,384 円
40 代	22年	28	21	23	21	7	23,521 円
	21年	32	25	17	17	9	23,819 円
50 代	22年	28	20	23	23	6	21,761 円
	21年	35	22	17	17	9	25,927 円
60代以上	22年	33	18	23	21	5	26,282 円
	21年	38	19	19	16	8	26,337 円
全 体	22年	28	21	23	21	7	23,188 円
	21年	32	25	18	16	9	24,156 円

年代別県内消費額別割合を比較すると、すべての年代で平均消費額が前年から減少している。50代は4,166円減少と、他の年代と比べて減少が目立った。50代は旅行日数が1.8日と短く、消費額が下がった要因の1つと思われる。

項目別では、すべての年代で前年から宿泊費の占める割合が減っているのが分かる。また、10代～40代という若い世代で飲食費の減少が目立った。交通費と土産代はすべての年代で増加となった。土産代の増加は、龍馬伝や土佐・龍馬であい博関連の、魅力ある土産物の充実が影響していると思われる。

(図 3-18) 四季別県内消費額別割合 (%)



()はH21年

四季別で県内消費額割合を比較すると、秋期を除いたすべての調査時期で、平均消費額が前年から減少した結果となった。

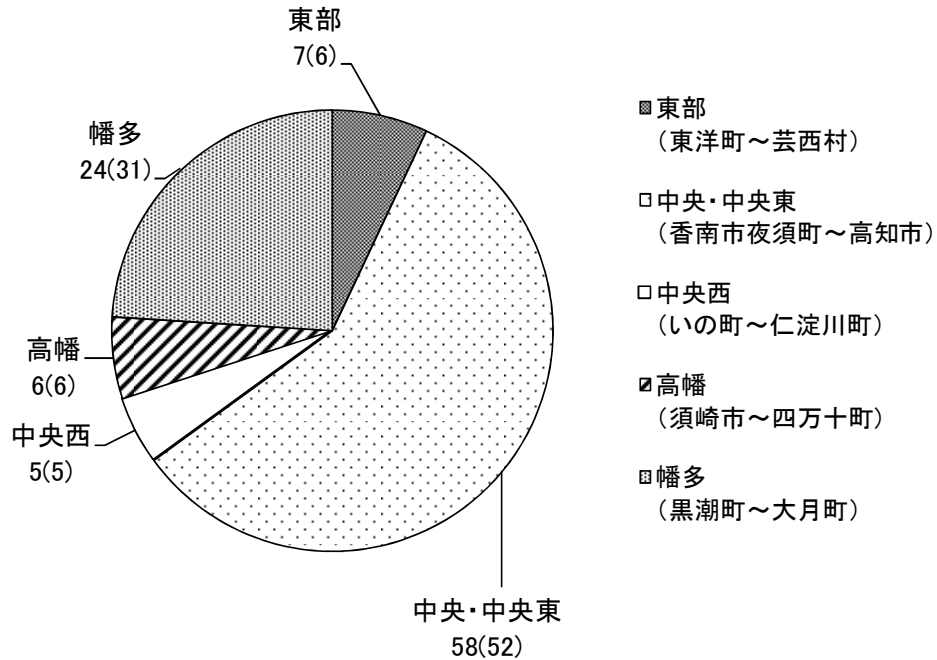
それぞれの費目の割合が最も高くなった時期をあげると、宿泊費、飲食費、その他は冬期、交通費は春期、土産代は秋期に高くなった。表をみると、冬期・春期・夏期は費目の割合にあまり変化は見られなかったが、秋期は宿泊費とその他の割合が減少したぶん、土産代が増加している。

(参考)動態調査による県外観光客一人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H19	H20	H21	(H19~21平均)	H22
県外観光客総数(人)	3,047,912	3,053,196	3,155,791	3,085,633	4,359,415
県外観光客一人当たり消費額(円)	23,780	25,459	24,156	24,465	23,188
<内訳> 宿泊費	6,603	7,907	7,690	7,400	6,490
飲食費	6,419	6,100	6,020	6,180	4,948
交通費	5,656	6,486	4,485	5,542	5,345
土産	3,196	3,291	3,806	3,431	4,909
その他	1,906	1,675	2,155	1,912	1,496
県外観光客の総消費額(百万円)	72,479	77,731	76,231	75,480	101,086
生産誘発効果(百万円)	117,138	125,669	123,004	121,937	153,421
生産誘発倍率(倍)	1.62	1.62	1.61	1.62	1.52

1 1 県内宿泊地域割合

(図 3-19) 県内宿泊地域割合 (%)



()はH21年

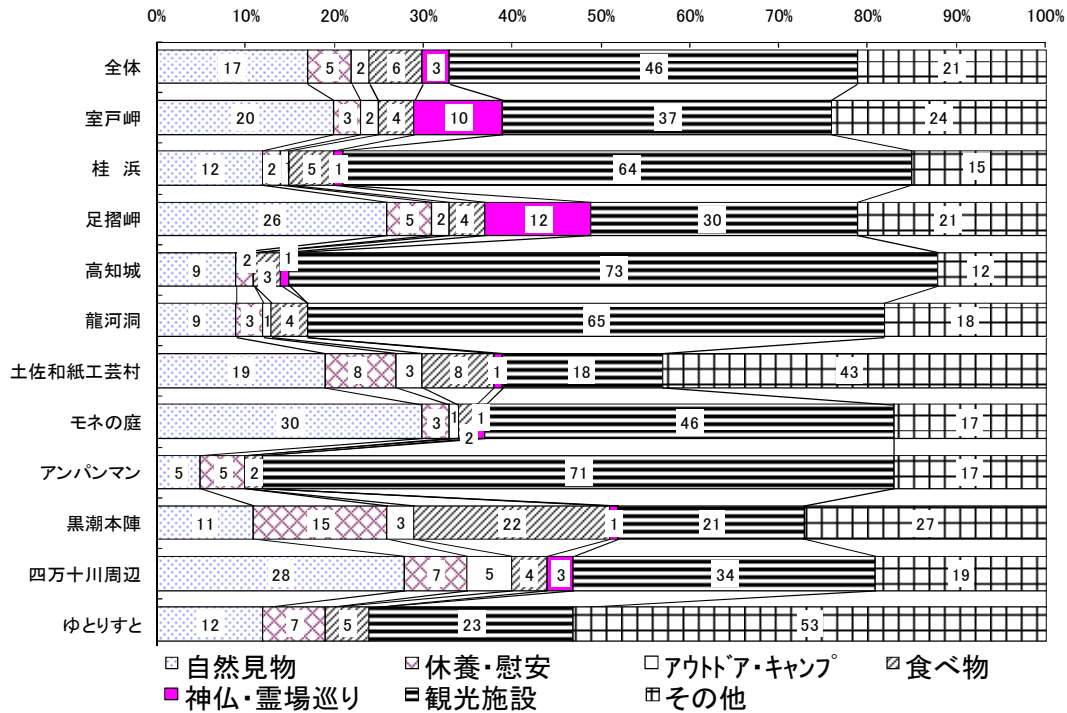
県内宿泊地の割合は、58%が中央・中央東となり、前年より6ポイント増加した。次いで、幡多が24%で、前年から7ポイント減少している。

今年は坂本龍馬に注目が集まった1年で、名所旧跡・観光施設の割合が増加しており、自然風景などの目的が多くなる幡多地域よりも、市内周辺での宿泊が多くなったと考えられる。高幡と中央西は前年から横ばいとなっている。

1 2 調査地別分析

旅行目的割合

(図 3-20) 調査地別旅行目的割合 (%)



旅行目的割合を調査地別にみると、地域の特徴や特性が表れている。

○足摺岬、モネの庭、四万十川周辺

1年を通して自然見物の割合が高く、県東部・西部の自然が十分な観光資源になっている。

○桂浜、高知城、龍河洞、アンパンマンミュージアム

高知城の次は桂浜というように、セットで観光する旅行者の方も多く見られた。アンパンマンミュージアムと龍河洞、のいち動物公園も家族の観光客に人気であった。

○土佐和紙工芸村

アウトドアやドライブなどの立ち寄り地点とされている方が多く、国道沿いにあることから愛媛県からの旅行者が目立った。

○黒潮本陣

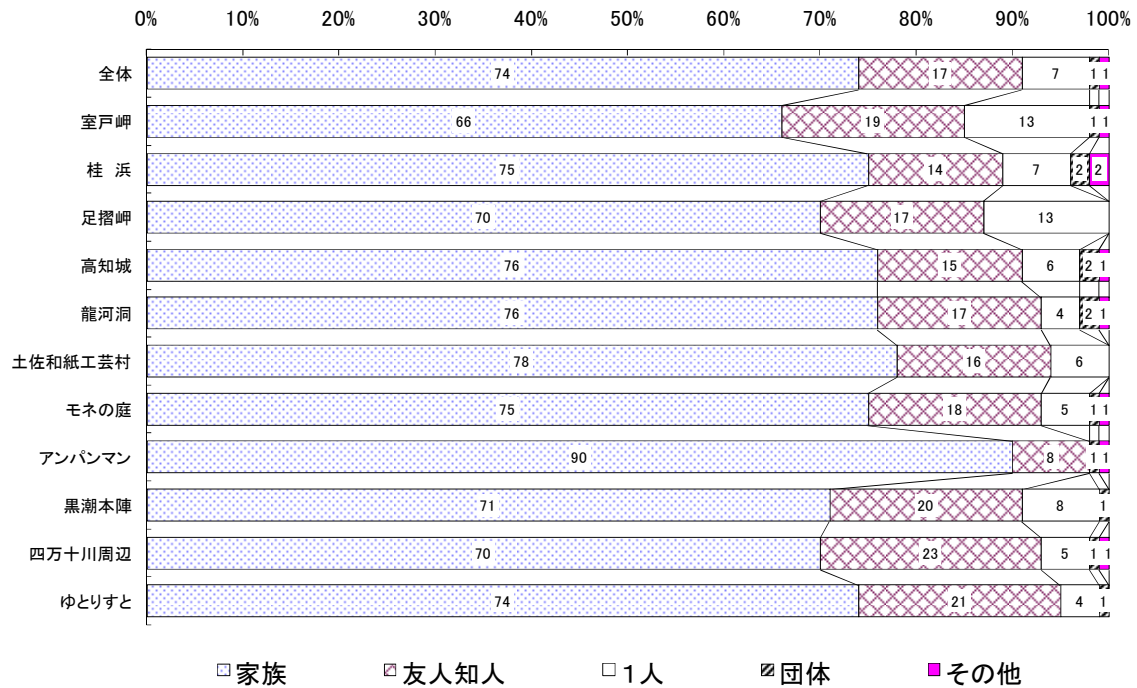
前年と同様に食べ物の割合が22%と高くなり、リピーターが多いことから、カツオブランドが確立していると言える。

○室戸岬

足摺岬と同様に神仏・霊場巡りが高くなっており、自然見物、観光施設など、幅広い目的で旅行者が訪れている結果となった。

旅行形態別割合

(図 3-21) 調査地別旅行形態割合 (%)



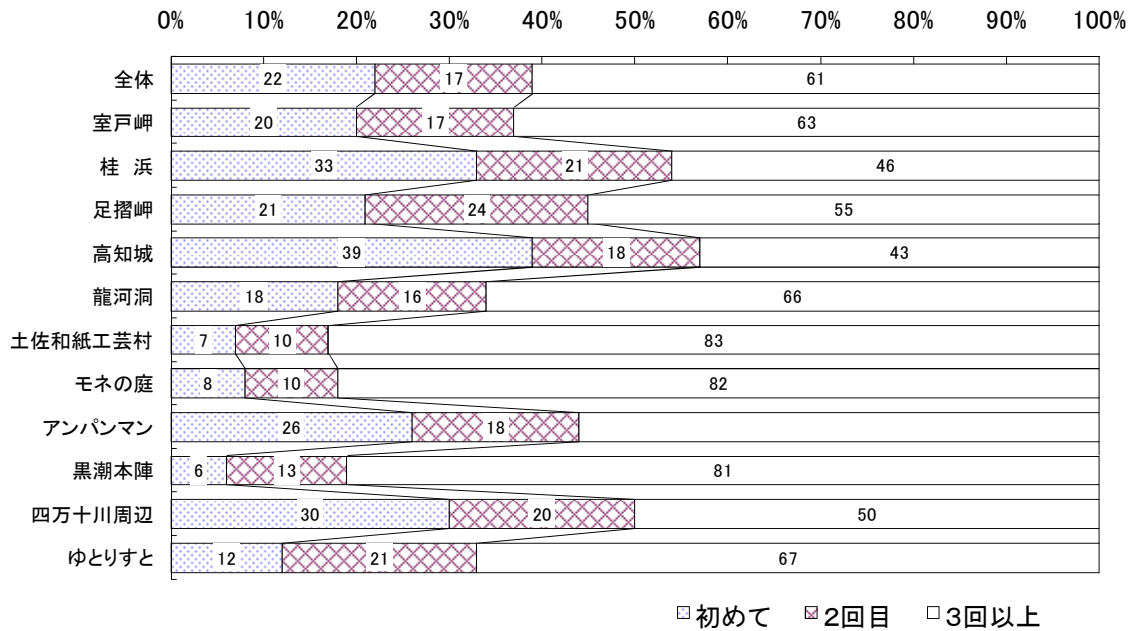
旅行形態割合は、家族旅行が 74% (H21 : 67%、H20 : 66%)、友人知人との旅行が 17% (H21 : 23%、H20 : 23%) となっており、トータルで 91% と、今年も個人旅行の割合が圧倒的に高い状況となった。それを調査地別にみると、家族の割合はアンパンマンミュージアムが 90% と最も高くなっている。団体旅行は、桂浜、高知城、龍河洞でよく見かけた。1 人は室戸岬、足摺岬で、バイク旅行やドライブ、四国八十八ヶ所の遍路旅の方と、度々遭遇することがあった。

【参考 19】 旅行形態割合 (22 年、21 年、20 年 : 全体) (%)

年 \ 旅行形態	家族	友人知人	1人	団体	その他
22年	74	17	7	1	1
21年	67	23	6	3	1
20年	66	23	7	3	1

過去来県回数別割合

(図 3-22) 調査地別過去来県回数別割合 (%)



旅行者のこれまでの来県回数は、全体として初めて高知へ観光に来た方は前年、前々年同様に 22% (H21 : 22%、H20 : 22%)、2 回目が 17% (H21 : 22%、H20 : 22%)、3 回以上が 61% (H21 : 56%、H20 : 56%) となっている。四国 3 県の入込が増えていることもあるが、3 回以上のリピーターが多くなったのは嬉しい結果と言える。

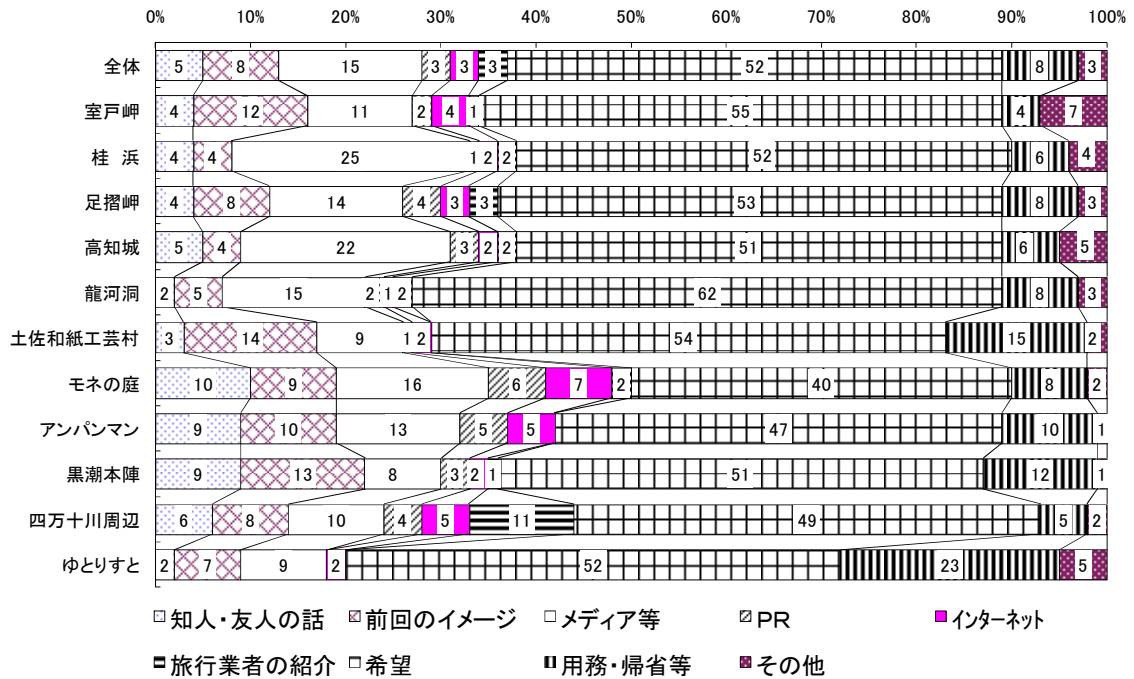
調査地別過去来県回数別割合をみると、高知観光の入口となる桂浜や高知城、全国にファンを持つ四万十川やアンパンマンミュージアムは、高知に初めて来た方が訪れる割合が高くなっている。土佐和紙工芸村、黒潮本陣、モネの庭は 3 回以上のリピーターの割合が高くなった。

【参考 20】 過去来県回数別割合 (22 年、21 年、20 年 : 全体) (%)

年 \ 来県回数	初めて	2回目	3回以上
22年	22	17	61
21年	22	22	56
20年	22	22	56

動機別割合

(図 3-23) 調査地別動機別割合 (%)



動機別割合は全体で「家族の希望」が 52% (H21 : 49%、H20 : 58%) と高くなった。次いで「メディア等」が 15%、「前回のイメージ」と「用務・帰省等」が 8% と続いた。

個別に見ていくと、龍河洞は「家族の希望」の割合が高く、「PR」、「インターネット」などの割合が低くなっている。また、「インターネット」はモネの庭で割合が高くなった。観光客の入込数が多いと思われる桂浜や高知城は「メディア等」の割合が高くなっており、テレビや雑誌などの情報を見て、はじめて訪れたという方も多いと思われる。ゆとりすとパークは調査時期が冬期のみということもあり、「用務・帰省等」が多くなっている。また、土佐和紙工芸村や黒潮本陣も、立地が愛媛や四万十市への国道途中ということも影響し、「用務・帰省等」が多くなった。「旅行業者の紹介」は、四万十川周辺の割合が高くなっている。

【参考 2 1】 動機別割合 (22 年、21 年、20 年 : 全体) (%)

年	知人・友人の話	前回のイメージ	メディア等	PR	インターネット	旅行業者の紹介	希望	用務・帰省等	その他
22年	5	8	15	3	3	3	52	8	3
21年	6	11	9	4	3	3	49	13	2
20年	5	9	9	2	1	4	58	10	2

【参考】高知県を訪れた観光客の意見

* 意見・感想を高知県観光動態調査から一部抜粋 意見の前の記号は、○＝評価できる点、△＝提案、改善が必要な点 に区分して表示

【土佐人のイメージ】

- 方言の響きが良い。標準語ではなく、土佐弁は使い続けてほしい。
- 高知県の人々はやさしく、親切で、道中、座席をお年寄りに譲る光景をよく見かけました。また、ホテルまでの行程を優しく案内してくれ、温かいイメージを受けました。

【高知県のイメージ】

- ◇ 高知は明るく開放的で南国情緒がある一方、お遍路やお祭りなどの宗教的な雰囲気も色濃く、こういった文化を残して行ってほしいものです。
- 高知は食べ物も新鮮で、明るく、賑やかで、住みたくなります。今年は龍馬博で盛り上がっているので、あちこち県内を巡ってみたいです。
- △ 高知だけではなく、四国で一丸となって、歴史ツアーコースを組むといいと思います。四国4県の観光情報が、各4県で簡単に入手できるようになってほしい。
- 高知の良いところは素朴な民芸品や新鮮な野菜がたくさんあることだと思います。
- △本州の人は四国＝自然だと思うので、自然と美術館巡りのツアーを四国でやったらどうでしょうか。
- 太平洋が雄大で美しく、四万十川や山々など自然が豊か。自然を求める人には良い県、リピーターが出る県ですよ。
- △よさこいが近づいてきたので、楽しみです。見ていて踊りたくなります。冬もこういうお祭りがあればいいですね。
- 高知は水や空気がきれいで、素敵な所。のんびり、アットホームで、観光、観光していない点が良いと思います。
- △ 岡山から見れば、宿泊は愛媛で、高知は日帰りコースです。
- △自然がきれいで南国風土です。ただ、外の観光地が多いので、天気によって観光地の面白さが左右される。
- 海がきれいで観光地化されていないのでゆっくりできます。高知は10回くらい来ていますが全く飽きません。
- △ 最近は歴史ブームだが歴史の陰に埋もれている高知の魅力があるような気がする。

- 南国風土が幕末の土佐の偉人を生んだのだから、この風土や雰囲気を売るべきでしょう。
- 初めて高知に来ました。雑多な感じがしてすごく面白い。商人とか昔の町の感じが残っていますよね。ひろめ市場は楽しかったです。
- 想像以上に見る所が沢山あった。時間があれば四万十方面へも行きたかった。
- △ 高知は四国の中でも異色。媚びていない印象だけど、龍馬にあやかり過ぎ。龍馬の故郷という事は宣伝すべき。でも何でもかんでも龍馬〇〇〇と名前を付けないでほしい。

【食のイメージ】

- △ ファミレスとかではなく、気軽に入れて美味しいご飯屋さんがたくさん出来てほしいです。香川のうどん屋がいい例ですよ。
- 四万十川の天然うなぎを食べる事ができて、大満足です。中村の居酒屋は手ごろな金額で美味しく、とても良かったです。
- 高知県は料理や農産物、魚介類が新鮮で美味しいですよ。馬路村のゆずには思い出があります。
- △料理はどれも良質なのに、ブランド化にこぎつけていない印象があります。
- 以前、県西部で食べたカツオがあまりに美味しくて驚きました。東部では貝料理などを期待しています。
- 黒潮本陣や風工房は田舎にあるのにグルメで良いですね。蕁焼きのパフォーマンスは凄く楽しめました。
- 西島園芸団地のフルーツのジャムやアイスがとても高知らしくて美味しかったです。座って南国気分でくつろげました。
- 帯屋町やはりまや町周辺には隠れた美味しいお店がありますね。四国は結構グルメな所。4県でグルメツアーをやってみてはどうでしょうか。
- ダバダ火振りなど、高知はお酒が美味しい。芋ケンピやごっくん馬路村も美味しいです。
- 黒潮本陣でのタタキはもう本当に絶賛できます。美味しかったです！ひろめ市場のご飯も美味しかったです。
- △ひろめ市場は地元の色んな食材の料理が食べられて良いのですが、座る場所が少ないと思います。
- 田野駅の物産は美味しい。西の方は魚が美味しくて、土佐清水のサバは旬の冬場にぜひ観光客の方に食べてほしい。足摺食堂は長太郎貝が美味しいです。

○ 日曜市ではよく野菜や果物などを箱買いします。以前も文旦を箱で買いました。ジンジャージュースが最高でした。

【おもてなし】

○△高知は海がキレイで、人情味が豊かなのですが、食事をする所が少なく、身障者向けの施設が少なく感じました。

○ いの町の農家民宿で、1日ゆったり過ごせました。子供たちも大喜びで、来年もまた来たいと思います。

△ 高知市内に観光向け駐車場を増やせば、県外から人が沢山来るのではないのでしょうか。

△ バイク利用者の宿泊割引などは喜ばれるんじゃないのでしょうか。あと、ホテルで情報交換が出来るエントランスがあれば、それぞれに話がはずむと思います。

○△海岸沿いの道は気持ち良く、道の駅も直々あるので、車だと過ごしやすいのですが、お遍路さんにはきついのでは。最近女性の方もいると思うので、ささやかなベンチやトイレなどの休憩所を少し構えるだけでもだいぶ違うと思います。

○ 龍馬ブームで県全体が賑わっていますが、各施設の観光ボランティアの方も多く、説明も分かりやすく、良いと思います。

○ 武市瑞山のお墓について、一般の方が優しく解説して頂いて、とても温かく良い印象を持ちました。

○ 四万十観光開発の職員及び船頭さんは皆さん感じが良く、気さくでいい人たちですね（多数意見）

○ 日曜市は規模も大きく、人情ある売り子さん達でとても心に残る朝市です。

○ 佐田の沈下橋に観光ぐるりんバスで行ってきました。ガイドさんも優しく面白かった。

△ 日曜市へ行くためにバスを利用するが、追手前高校付近に高齢者のためのベンチを設けたらどうでしょうか。

【情報／案内板】

△ 冬は店がいつ正月休みなのか記したものを、分かりやすい案内板やガイドを主要な所に置いたらいいと思う。ネットに載ってはいるが、お年寄りなんかはネットに疎遠な人もいるので。

△ 日の御子公園までの標識が分かりづらい。県内の人でも迷うのに、県外の人分かるわけないと思います

△ 龍馬や功名が辻の史跡の名所で、LAN や QR コードを使い、パソコンや携帯

などと繋いで、その史跡の情報が見られるようにしたらどうか。大河ドラマを見ていない限り、県外の方からしたら分かりづらいし、冊子やデジタル機器などを貸し出すのもいい手だと思います。

- △ 世界に発信できるホームページの充実が大切だと思います。せっかくこんなに美しい海があるので、ぜひネットでPRしてほしい。
- こころざし社中や弥太郎生家など、安芸の観光地の看板は見やすく、スムーズでした。
- △ 高知は自然がたくさんで、人も温かいので、こういった点も県外PRしていけばいいのにと思いました。
- △ かつおのたたきが食べられる所のパンフレットを作れば良いと思います。どこで食べられるか県外の知り合いに聞かれるので。黒潮本陣以外に食べられる所をパンフレットに載せてはどうでしょうか。
- △ 黒潮本陣へ行く途中の案内板は非常に分かりにくかったです。
- △ 関西までは中々高知県の情報が入ってこない。若い人に知ってもらう為に、関西の情報誌やネットなどに情報を掲載したり、大学などに観光案内の冊子を置いてみてはどうか。
- △ 絵金祭りに行ったのですが、駐車場がどれも分かりにくかったので、案内サービスの充実の必要性を感じました。
- △室戸岬に夕日の撮影に来ました。オススメの写真撮影スポットのパンフレットがあればいいですね。写真の雑誌などで県内名所の特集を組むのもいいかと思います。
- △ 佐田の沈下橋は看板が分かりにくいです。あと、四万十川の下流だけ見て、判断する観光客もいると思うので、もっときれいな上流をPRした方がいいと思います。
- △ 遍路道で迷う所があった。看板や案内図を分かりやすくしてほしい。
- △ 武市半平太道場跡が分からなくて何度も迷いました。
- △ ジオパークは子供に宣伝したら良いと思う。子供が好きそうです。
- とさてらすは物産もあり、面白かったです。あと、駅の観光案内所は良かった。ピンポイントで名所やお店を紹介してくれるパンフレットでとても役立ちました。
- モネのメタセコイヤがきれいでした。睡蓮だけではなく紅葉の季節のPRもした方が良くと思います。
- △ 観光に、歴史の事をもっと加えれば良い。アピール不足。歴史の背景がこれだけある県も他にないのに。龍馬に付随する志士達（吉村虎太郎とか二十三志士など）も売り出せばよいのに。

△ これから外国人がたくさん日本や、高知に来てもらうために英語の標記の看板や案内標識の充実が大事だと思います。

【施設／美化】

○△高知の観光スポットはキレイになっていますが、桂浜の五色石が無くなってしまい、残念に感じました。

△ テーマパークは必要ないです。もっと田舎っぽさを活かしてほしい。高知は瀬戸内海と比べても、海が美しいです。観光資源を大切にしてほしい。

△ 昔ながらの良さを守りながら、観光に繋げて、産業の1つにしてほしい。古いものは廃れてしまうので、+αを上手く取り入れなければいけないと思います。

○ 紙の鯉のぼりは素晴らしいですね。大漁旗にも驚きました。賑やかで良いですし、伝統工芸を大切にしていけばいいと思います。

○ 初めて、四万十川、黒尊川でキャンプをしました。鳥の鳴き声と川の音で目が覚めます。凄い自然です。この自然を守って下さい。

△ 室戸や東部はもっとお金を落とすものや施設を考えた方がいいと思います。高知のお土産は果物しか無く、香川のうどんのようにグッとくるものがない。龍馬や弥太郎をもっと活かして。もっといい売り子さんやPRでどんどん外にアピールしてほしい。のどかな自然は残っていますが、四国他3県への中継地点になってしまいそうです。

○ 幕末関連の史跡、社中巡りが大変楽しかったです。駐車場代がただの所もあり、嬉しかったです。来年以降も何かイベントを施してください。

○△初めてモネの庭に来ました。青い睡蓮がどれもきれいで素敵です。ただこの近くにホテルがあれば、モネのレストランでワインが飲めるのにと思いました。市内から凄く遠いので、自家用車で移動しているのですが、何か方法は無いでしょうか。

△ 6歳の子供が遊ぶもっといい施設があれば良いと思います。アンパンマンはもう卒業なので。エコとか自然を活かしたアトラクションやテーマパークがあればいいですね。

△ 仁淀川をもっと観光地化するなら、トイレの整備と、河川沿いのお店を増やすことだと思います。

○ 牧野植物園の展示や建物は子供からお年寄りまで楽しめます。たまにやるイベントの内容が良くて、近くに住んでいたらもっと訪れたいです。

○ 足摺海洋館と海底館は子供が凄く喜んでいました。竜串のグラスボードも凄く良かったです。

○ 牧野富太郎さんの植物画がすごく良かった。温室の展示はガーデニングの

手法を取り入れていて、昔とは全く違う展示で感動しました。木の実などが細かく見られるようになっていたのが感動しました。

- △ 年配の方や、体が不自由な方のためにも公衆トイレに洋式を増やしてほしい。
- 海底館は自然のままの魚の生態を見られるので良い。また、海洋館では生き物に触れることができるコーナーがあり楽しめました。
- 北川村温泉では高知の写真家（前田博史さんという方）の風景写真が休憩室に飾られており、お風呂上りにとても癒され、のんびりできました。高知の景色はきれいですよね。
- △ペーパーラボではいつもたくさん買ってしまいます。和紙をもっとアピールするべきだと思いました。
- △帯屋町は昔らしい商店街でとても良く、美化にも感動しました。もう少し人が多ければ満点です。

【交通事情】

- △ 徳島から東回りで来られる県外客や地域住民のためにも、室戸から奈半利までのルートを整備すべきだと思う。高知市メインだけの交通網が充実している。
- △ JR は高いので、四国全体でバスを発達させたらどうでしょうか。高知は資金を作り、東西バスや、市内で名所を巡るMY遊バスを充実させ、観光客を迎え入れる態勢を作れば良いと思います。
- △高知駅は広々としていて良かった。駅のガイドも良かった。高知駅の一般駐車場を広くしてほしい。
- △ 観光地と観光地が離れすぎている。道の整備や JR の便数の増加は採算が合わないの、その地域の物を活かしたお店を作り、それらの土地を楽しみながら移動すれば、観光客や県内ドライブも苦にならないのでは。

【その他】

- △ 土産物の充実は大事だと思います。地名を入れたお饅頭などより、女性客が好むパッケージや手頃な料金、種類など、ここでしか買えないプレミアム感があるのもの。いいと思うものがあれば、もっとお金を使おうと思います。
- △ 帯屋町の散歩ルートを作ったらどうでしょうか。はりまや橋から出発して、日曜市やひろめ市場を通り、高知城の天守閣がゴールのようなルートで。
- △ 龍馬伝のストラップも木で作っていますが、高知の木でできた雑貨を増やせばいいのではないのでしょうか。

高知県観光客アンケート調査票

Q1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。また、この調査実施県にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____)	海外の場合 (国名: _____)
↓ 地元県の場合 → (市町村名 _____)	

Q2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

Q3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り	2. 宿泊	↓ 宿泊した施設の数 ↓ 宿泊数 _____ 泊 → そのうち県内 _____ 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設
--------	-------	---

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

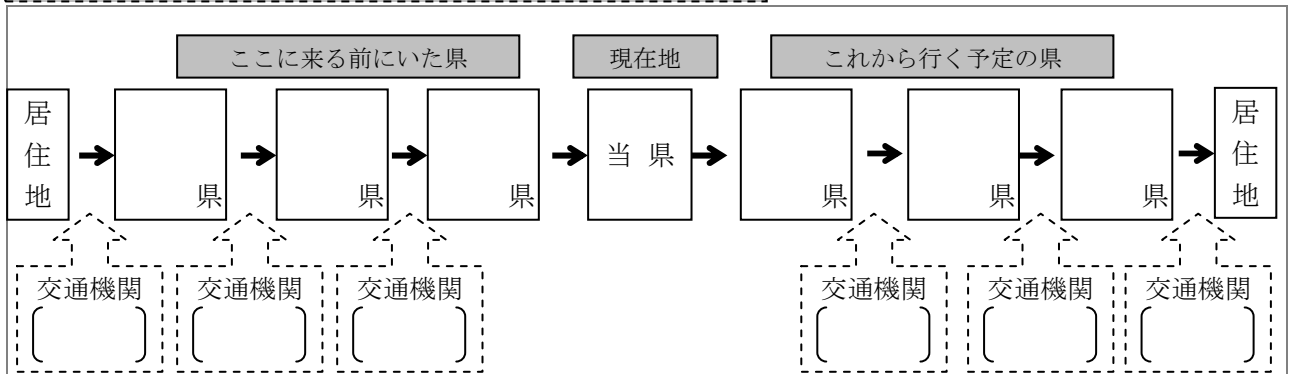
Q4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス	
2. 観光	
「2 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えてください。	
01 自然見物・町歩き	02 休養・慰安
03 祭り・イベント	04 登山・アウトドア・キャンプ
05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)	06 食べ物 (味覚・酒)
07 神仏・霊場巡り	08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽	10 なんとなく (ドライブ等含む)
11 その他 ()	
3. 帰省・知人訪問	
4. (1～3のどれでもない) その他	

Q5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話	2. 前回のイメージ	3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等)	5. インターネット (携帯電話含む)	6. 旅行業者の紹介・ツアー参加
7. 来たかった・家族の希望	8. 帰省	9. その他

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入ください



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
- ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用	使用費用
①交通費	(県内分) 円	(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円	
③土産代	(県内分) 円	
④飲食費	(県内分) 円	
⑤入場料	(県内分) 円	
⑥その他	(県内分) 円	
⑦パック料金		円
		↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせください）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせください

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆

※調査票コード
1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	